

栃木市男女共同参画広報紙

平成28年3月

第6号

きららとちぎ



男女共同参画写真コンテスト 最優秀賞「趣味の会 発表の日」田中 茂さん



男女共同参画

編集／きららとちぎ編集員
(栃木市男女共同参画地域推進員)
発行／栃木市生活環境部 人権・男女共同参画課

〒328-8686
栃木市万町9番25号
TEL 0282(21)2162
FAX 0282(21)2680



栃木市マスコットキャラクター「とち介」

宣言都市記念式典



栃木市は、1市5町合併後、男女共同参画社会の実現に向け、あらためて「男女共同参画宣言都市」となりました。平成28年1月23日(土)に、栃木文化会館大ホールで記念式典を開催し、宣言文を発表しました。

栃木市男女共同参画都市宣言文

“自然”“歴史”“文化”が息づき“みんな”が笑顔のあったか栃木市をめざしている本市は、世代や性別にかかわらず、誰もがお互いの人権を尊重し、豊かで生き生きと活躍できるまちづくりを行うために、ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

- 1 わたしたちは、女と男がその個性と能力を十分に発揮することができ、多様な生き方を尊重するまちをつくります
- 1 わたしたちは、女と男が家庭、学校、職場、地域などのあらゆる分野で、平等に参画し、協働するまちをつくります
- 1 わたしたちは、女と男が地域で共に支え合い、協力し合って、すべての人が安心安全に暮らすことができるまちをつくります

平成27年11月27日 栃木県栃木市

※※主催者挨拶※※

栃木市長 鈴木俊美

新しくなった栃木市が、この度あらためて男女共同参画都市宣言を行い、本日はその記念式典開催の運びとなりました。

新生栃木市における男女共同参画の街づくりは、まだまだ道半ばです。

例えば、市職員の男女構成比も女性が少ないですし、女性の管理職の割合も全国平均より低く、また、各種委員会に女性が占める割合も、目標の30パーセントに届いていない状態です。

今後はこの宣言をきっかけに、市職員の女性登用に取り組むとともに、地域社会においても、女性と男性が共に参画し、行動する栃木市を目指していきたいと思っています。

終わりに、この記念式典の開催にあたり、多くの方のご協力をいただき、心から御礼申し上げます。





栃木市男女共同参画

標語・写真コンテスト表彰

「誰もが生き生きと暮らし、豊かで活力ある男女共同参画社会の実現」を目指し、今年も標語(小学5年生)と写真(一般)を募集しました。

その結果、標語は966点、写真は22点の応募がありました。

優秀な標語と写真に、市長から表彰状が贈られました。

○標語の部

最優秀賞

「父がお料理 おかしいぞ」

その言葉がおかしいぞ

栃木第四小5年 境 雅騎

優秀賞

消そうよね 男と女の

境界線

栃木中央小5年 長谷川将基

子育ては 女性がすると

思っていない？

栃木第五小5年 大木 香凜

カタカタと ミシンをならす

お父さん

国府北小5年 館野佳菜子

今日は母 明日は父が残業だ

料理の味も 交代交代

大平西小5年 鹿住 裕香

女でも 大工になるのが

私のゆめ

家中小5年 青木 美緒

○写真の部

最優秀賞 (表紙に掲載)

「趣味の会 発表の日」

田中 茂

優秀賞

「一緒にあそぼう」 「洗い物はぼくの係」

飯塚真理

熊倉弥生



「茶豆脱穀」
仁戸部昭夫



「お父ちゃんは悪戦苦闘」
横永知美



☆☆☆記念講演 ☆☆☆

「女性が働くこと」

元TBSアナウンサー 吉川 美代子氏



子どもの頃からアナウンサーになった吉川氏は、一九七七年にTBSに入社。当時は、男女雇用機会均等法もなく、新人研修後、デスクに「女のくせに生意気」と言われた。

日本の企業は一般的に、女性の出世は男性の五年遅れである。現在、国が盛んに女性の登用や活躍推進を進めているが、設定した数値目標に合わせようとしているだけではないかと感じる。「結果」の平等ではなく、「機会」の平等を与えてほしいと思う。

TBS初の女性キャスターとして苦労も多かったが、定年を迎えた時は、楽しかったことや嬉しかったことだけが思い出された、とのことでした。

☆☆☆市民の感想 ☆☆☆

◎若い方達に多く聴いてほしかった。講師と同世代で長く仕事を続けてきたので共感する部分が多かった。

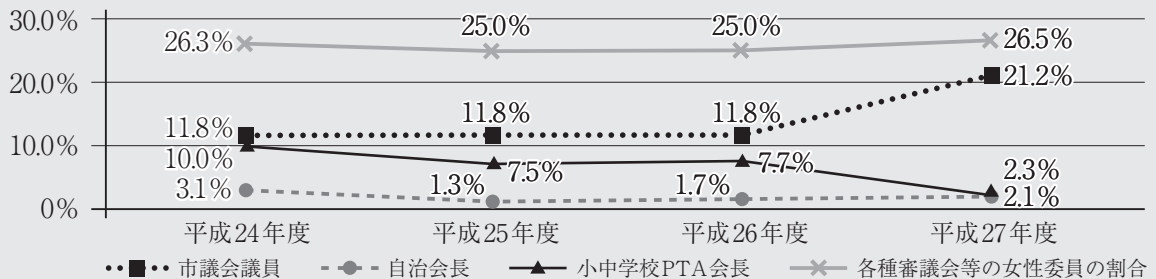
◎講師のお話の内容が大変良かった。女性が働き続けることへの強い信念を感じた。

平成26年度「とちぎ市男女共同参画プラン年次報告書」より

今回は、栃木市のいろいろな取り組みのうち、『「指導的地位」における女性の割合(女性登用)』について報告します。



ねえ知ってる？ 国は、社会のあらゆる分野の指導的地位に女性が占める割合を2020年までに30%になるように目標を定めているんだよ。栃木市はどうか？



あれれ？まだ30%になっていないんだね。「自治会長」と「小中学校PTA会長」の女性の割合がとても低いね。市民の半分は女性なのに、なんかおかしいよね。

少子高齢社会では、女性の活躍が特に重要なんだ。男女が対等な立場で家庭や職場、地域で活躍するには一緒に話し合うことが必要だよ。みなさんも各種審議会委員の公募や地域活動の役員などは是非応募して参画しよう！



報告書の内容は、市のホームページか市役所人権・男女共同参画課の窓口でご覧いただけます。



私の社会進出の原点は、「とちぎ市男女共生大学」で沢山の事柄を学んだことにあります。

これからも受講する仲間を増やし、共に前向きに学んでいきたいと思っています。

しかし、若い頃からずっと学んでいれば、と思うことが沢山ありました。「年重ね さらさら輝く男女を目指して」をモットーに、一層努力して、若い人たちの目標になれるよう頑張りたいと思います。

どの講座を受講しても、私にとっては関心のある内容ばかりでした。特に、栃木女性史研究会「あいの会」の発表には、私も携わっていたので、感慨深いものがありました。

「とちぎ市男女共生大学」に学ぶ
村田 弘子

日本の超少子高齢化に向けて、若い世代が働きながら何人も子育てしたいと思えるまちづくり、高齢者が健康で生き生き暮らせるまちづくりが、早急に求められています。今回の経験を通して、私も「誰もが生き生き暮らせる栃木市」の担い手として、周囲の方々と協力して考えていきたいと思っています。

蔵の街として名高い岡山県倉敷市。その美観地区に連なる白壁の規模は、栃木市とは比較にならないくらい圧巻でした。そんな倉敷市に、全国から約二千人が集い開催された日本女性会議も、今年で32回を数えました。そもそも日本女性会議とは、決して女性だけが集まる場ではありません。男女共同参画を切り口として地域が抱える様々な課題に対し、日本全国の老若男女が知恵を出し合い、知識を高め合う場なのです。

「日本女性会議2015倉敷」に参加して
県次世代人材づくり事業 研修生
久田 みゆき
平成27年10月9日(金)～11日(日)



おおひら 男女共同参画のつどい

平成27年6月21日(日)

大平文化会館

「介護は皆互で」

介護についての理解を深め社会全体で支える環境づくりへの関心を高めることをねらいとしました。

講話

「認知症を地域で支えよう」



栃木市社会福祉協議会
大平支所長
関根 博行氏

栃木市の高齢者人口は約四万五千人で、高齢化率は約27%（平成26年4月現在）認知症高齢者は平成35年には、65歳以上では五人に一人となる予想である。

◎認知症と物忘れの違い

◎認知症発症の原因によつては、早期発見により治療可能な症状もある

◎認知症患者への対応。三つの「ない」

- ①驚かせない
- ②急がせない
- ③自尊心を傷つけない。優しくゆっくりと対応する

◎認知症予防は健康寿命を延ばす
◎地域でどう支えるか

笑いを誘う軽妙な話術のうちに多くの共感を呼ぶ講話でした。

朗読劇

「認知症 早く気づいて!」

話題提供のため、身近な事例を取り上げ、会員が創作し自演しました。

「おしゃべりティータイム」

《グループ別、話合いの中より》

○認知症と物忘れの違いや予防が良くわかった

○「三つのない」を守り、介護にあたりたい

○認知症患者は増加傾向にあるので早くから対策する必要がある

○地域の中での高齢者自身の取り組みや周囲の支援が、明るい地域づくりになる

○皆で話し合う場や楽しめる場を作る工夫が必要ではないか

○男性の自立が必要である

○近所で支え合うことの大切さを学んだが、現状では非常に難しい（付き合いが希薄ゆえ）

○個人情報守秘が逆に困る

○小さい時から認知症や介護のことを知るために、学校で学ぶと良いのではないか

男女共同参画社会を考える とちぎ県民のつどい

平成27年6月20日(土)

パルティとちぎ男女共同参画センター

パルティ開館二十周年の記念として、男女共同参画週間に合わせて開催されました。

午前の部は、映画「何を怖れる〜フェミニズムを生きた女たち」を上映しました。戦後の女性運動をリードしてきたフェミニストの女性十五人にインタビューしたドキュメンタリー映画でした。

午後の部では記念式典に続き、社会学者上野千鶴子さんが「リブから四十年〜日本の女性はどこまで変わったか?」と題して講演しました。



熱心に聴き入る参加者

女性の社会進出、男女平等には

女性が安心して働ける法律や社会環境の整備が必要です。女性が平等を目指し活動できるようになってきたのは、諸先輩たちのお蔭です。「自分で判断できる女性を目指して!」との言葉を肝に銘じて、次世代にバトンを渡していきたいと思います。



お知らせ (予定)

◎とちぎ市男女共同参画のつどい

平成28年7月2日(土) 栃木市市民会館

内容 標語などの表彰、講演
詳細につきましては、市広報紙等でお知らせします。

◎おおひら男女共同参画のつどい

平成28年6月18日(土) 大平文化会館

内容 未定
ぜひ、ご参加ください。

第6回

まらまら と 輝いてる男女

栃木地域

「支え合って暮らせる町」を目指して

箱森町東部自治会長

山本 キミ子



箱森町東部自治会の会長として四年目、「支え合って暮らせる町」づくりを目指して活動しています。

私が会長になってまず取り組んだことは、会員相互の支え合いです。年々高齢化・少子化が進み、ひとり暮らしや老人世帯が増えてきているからです。会員一人ひとりの努力点として、あいさつ運動、安心・安全な町、環境美化を挙げ、協力し合うようにしています。自治会行事への参加者も増え、公民館での活動も盛んであることは、会員の交流も益々深まるものと嬉しく思っております。

十月中旬、公民館にて「戦後七十年今伝えたいこと 伝えて欲しいこと」の講演会を開催。七十名ほどの参加者は、平和の大切さを充分に感じ取ってくれたものと思います。

「自治会に新風を…」の毎日です。

大平地域

くつをはき替えて

柴田 保男

私は今、インドの教えで言えば人生の「林行記」。数え切れない人々の力をいただきながら。旧大平町の最後から新しい栃木市初頭までの二十年間、公的な立場でその歴史の中に身を置くことができました。感謝しております。

昨年頃から心がけていて、履きなれた靴から今は軽い沓に履き替えて、ゆつくり歩き始めました。子どもの頃から夢に見た「晴耕雨読」もできるようになりました。

勇気を出して地方紙文芸欄にさやかな投稿を試み、誘いに乗って小学校の読み聞かせに参加。全く新しい緊張の体験です。

男女共同参画については、「輪のまちおおひら」時代から少しずつですがお手伝いしていました。歩行の向きを変えてみると、一日一日、自分の中に新しい芽を見つげられることを実感しています。



藤岡地域

明るい未来の笑顔の為に

健康運動指導士

原 美穂子



30歳の時体調を崩し、主治医から健康維持の為に運動することを勧められ、健康運動指導士の資格を取得しました。それから十三年、運動に関わってきました。

現在は栃木地域4カ所と藤岡地域で活動しています。

特に高齢化社会の中で、転倒による骨折は寝たきりになる可能性も多く、足腰を鍛える運動を中心に皆さんが楽しく続けられる工夫をしています。最高齢の方は98歳の男性で頑張っています。身体を動かした後の皆さんの笑顔やスツキリした表情に私も元気をもらっています。個人の健康は家庭を元気にし、また地域の活性化にもつながると思います。

私が自主的に活動できるのは夫や家族の支えがあって実現できることです。これからも沢山の方に感謝しながら、お手伝いしていきたいと思っています。

都賀地域

あたたかい家庭のように

特別養護老人ホームうづま荘

施設長 甲斐 典子

うづま荘は来年で開設35周年を迎える歴史ある介護施設です。

男性職員は体力と優しさを生かし、女性職員は細やかな心遣いを持って、入居者の生活のお手伝いをしています。男性も女性も差別なく働ける職場です。

入居者には家庭的な雰囲気味わっていただけるよう、職員は10代から70代と幅広い世代から雇用しています。雇用の際には個人の家族背景等も考慮して、それぞれの状況にあった雇用形態をとっています。そのことにより離職率が低く安定した就労環境となっています。また、今後は外国人労働者などの受け入れも視野に入れ、グローバルな活動も行っていく予定です。

地域の皆さまから、「うづま荘があるから安心」と言っていただけのように、邁進していきたいと思っています。



西方地域

地域のたまり場・縁側を

茶話サロンなでしこ

代表 鮎田 洋子



とちぎ市民活動推進事業「とちぎ夢ファール」の支援を受けて、平成25年6月「茶話サロンなでしこ」を開所しました。65歳以上の高齢者を対象に、主人の協力を得て、自宅建物を利用し、「ケアされる人から支え合う人」を目指しています。

初年度は月一回、今年からは月二回の開催に増やし、お茶を飲みながら歌ったり、手芸や健康体操、季節の行事、日帰り旅行などを行い、積極的に活動しています。

男性が出かける機会が少ないことから、奥様にご主人の参加を促してもらい、最近ではご夫婦での参加も増えてきています。

年を取ってもなるべく自宅で過ごすことが出来、今日行く所があり、今日やることのある居場所づくりに努め、頑張っています。

岩舟地域

女性の底力

松島 わか子

今私は心豊かに、心静かに日々を過ごしています。家の中でハワイアンキルトに親しみ、外ではハワイアンフラを毎週ウキウキしながらレッスンに明け暮れています。しかし数十年前には、こんな日々が訪れることなど夢のまた夢でした。

昭和48年2月、住宅設備業を開業。右も左もわからない、夫29歳私27歳の勇気ある決断でした。無論資金もなく、あるのはやる気と健康な身体だけです。昼も夜も仕事漬けの、二人で走り続けてきた四十三年間でした。

自然に役割分担され、女性の発想や能力、女性の底力、女性の目線で考えると無限の未来が広がります。

男女共同参画の実現には課題も多くありますが、一つひとつを確かなものにするために向かっていくことこそが、大切であると考えます。



石川 進

孫一人、女の子で保育園に通っていますが、来年は小学生です。娘夫婦は隣に住み、仕事に出してしまうので預かっています。孫は自分で着替えをし、食後、私の膝の上で歯磨きをして、赤ちゃんに髪を結ってもらい、保育園に行きます。バスを待っている間いろいろ話をしたり、ボール投げをしたり、これも楽しいひと時です。

園で嬉しいことがあると「ただいま」の声も特別大きく、私も元気をもらっています。最近覚えた簡単な漢字を書いたり、数の計算をしたりといろんなことに興味や関心を持ち、よく質問攻めに遭います。また、私の姿が見えないと「じいちゃん、どこ？」と捜すので、じいちゃん冥利に尽きます。

六年前大手術をした私が、孫の世話が出来ることに感謝しています。いずれ離れていくでしょうが、今はこの幸せが、私の生き甲斐です。

ギニアの家族

ケイタ・モモ

(都賀在住／ギニア共和国出身
／ミュージシャン)



ギニアは大統領制になってから五十数年と歴史は大変浅く、世界にほとんど知られていない国でまだまだ発展途上です。日本が戦後急激に発展を遂げていた間、ギニアはずっと日本の戦後まもない頃のままといった感じでしょうか。

例えば、電気が頻繁に停電するので常にロウソクやランプを使用していたり、都市部では共同で使う水道が設備されているのが一般的ですが、井戸や川から水を汲み生活しているところもあります。料理も炭から火をおこし、軒先で何時間もかけて調理します。スーパーに買物に行けるのはお金持ちや外国人で、普通は青空市場でその日一日の買物をします。

車は庶民は持っていません。タクシーやバスがあっても余程遠くに行かないかぎり使いません。洗濯機などないので大きなタライに水を張り、洗濯板で

全身を使って服を一枚一枚手洗いです。

この大変な全ての家事をギニアの女性がこなします。男の人は家のことをほとんどせず、仕事をしてお金を稼ぐという役割です。もちろん女性性は、仕事をせず、稼がない男性に対しては怒りますが、常に旦那さんを尊敬し、家庭での決定権は全て委ね、逆らいません。そして子どもたちは小さい頃からよくお母さんの手伝いをします。そして、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃん、年上の人に対して敬う心を忘れません。

このように一人ひとりの立場があり、家族が成り立ちます。家族を大切にし、家族に感謝する。自分がいるのは家族あってこそ。これがギニアです。

私は日本に来て二年が経ちましたが、まだまだ日本について知らないことばかりです。ただ、日本では地域や行政が、女性の必要性や社会的立場の確立、家庭での男女の役割分担など、男性と女性が同じ人として平等であることを求めているこうと取り組んでいることに驚かされました。私から意見するほど日本を知らないの、アフリカ、ギニアの現状を少し知っていただいて、何かを感じ取っていただければと思います。

DVに悩んでいるあなたへ 相談してください

DV(ドメスティック・バイオレンス)とは、夫婦や恋人など親密な関係にある男性から女性へ(女性から男性へ)の暴力をいいます。

DVで困った時は、ひとりで悩まず、ご相談ください。

栃木市役所 こども課	☎0282-21-2229
栃木警察署	☎0282-25-0110
とちぎ男女共同参画センター相談ルーム	☎028-665-8720
認定 NPO 法人 ウイメンズハウスとちぎ	☎028-621-9993
認定 NPO 法人 サバイバルネット・ライフ	☎0285-24-5192
女性の人権ホットライン(宇都宮地方法務局)	☎0570-070-810
栃木県警察本部県民相談室	☎028-627-9110



女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク

(電話番号は、平成28年2月現在のものです。)

配偶者等からの暴力、性犯罪、ストーカー行為、売買春、人身取引やセクシュアル・ハラスメント等、女性(男性)に対する暴力は、人権を侵害するものであり、決して許される行為ではありません。

編集後記



1月23日、栃木市男女共同参画宣言都市記念式典を終え、男女共同参画社会のまちづくりが本格的にスタートしました。今後は、女性も男性も、あらゆる分野で助け合い、栃木市発展のため努力していきたいと思ひます。